

「日欧有識者対話」概要

公益財団法人日本国際フォーラム（J F I R）及び日本国外務省は、2015年11月11日、ANA インターコンチネンタルホテル東京にて、「日欧有識者対話」を共催しました。本「対話」は、「日欧戦略的パートナーシップとアジアそして世界」を総合テーマの下、以下の2つのセッションから成り、日欧を代表する有識者（別紙一覧を参照）の参加を得て実施されました。

セッションⅠ：変化する東アジア・パワーバランスと日欧協力

セッションⅡ：21世紀の国際秩序と日欧協力

本対話（非公開）は、日欧双方の視点から、アジアを中心とする今日の国際安全保障の大勢について概観し、以て、変動するアジアおよび世界の安全保障環境に対応する上で、いかなる日欧協力が重要となるか、という点につき日欧双方が認識を共有することを目的として開催されました。その概要は次のとおりです。

冒頭挨拶

冒頭、伊藤憲一 J F I R 理事長より冒頭挨拶（渡辺繭 J F I R 常務理事代読）がなされ、次に、小林麻紀外務省欧州局政策課長より冒頭挨拶がなされました。

セッションⅠ：変化する東アジア・パワーバランスと日欧協力

本セッションでは、森本敏日本国際フォーラム理事・元防衛大臣が議長をつとめ、日本側から細谷雄一慶應義塾大学教授、泉川泰博中央大学教授、高原明生日本国際フォーラム参与・東京大学教授、橋本靖明防衛研究所政策研究部長が、欧州側からマークス・カイク独学術政策財団（SWP）国際安全保障部上席研究員、エレナ・アタナソヴァ＝コルネリス／アントワープ大学政治学部講師、マリオ・エステバン王立エルカノ財団主任研究員が、それぞれ報告を行いました。本セッションで提示された主要な論点は次のとおりです。

- 現在進行している東アジアにおけるパワー・バランスの変化は、現在の国際秩序を支える既存のルールや規範に対してなされた、中国による挑戦として理解されるべきであり、現在ウクライナで発生している事案と本質的に関連している。
- アジアにおける地政学的激動の重要性を理解している米国は、アジアへの「リバランス」政策を実践した。しかしながら、米国は恒常的に世界規模での米国の戦略的重点領域の再検討を進めている以上、米国のアジアへの「リバランス」自体が恒久的な政策とはならない可能性がある。
- 欧州各国は中国の台頭を、自国の経済回復のための経済的利益を得る機会とみなしている一方で、東アジア全般は、欧州各国にとって戦略的優先地域とはなっていない。さらに、欧州は、対中国政策に関して一枚岩とはなっておらず、中国はその点につける可能性がある。
- いずれにせよ、日欧は、中国の政策サークル内部に存在するいわゆる「国際派」を支持し、彼らが自国に対し既存の国際ルールと規範を順守するべく働きかけるよう期待するべきである。
- 当面、日欧は、双方間での自由貿易協定の締結を急ぎ、以て貿易における国際規範の重要性を強調しつつ、模範を示すべきである。
- 日欧間でのサイバー・宇宙空間での協力の重要性についても注目すべきである。

セッションⅡ：21世紀の国際秩序と日欧協力

本セッションでは、中西寛日本国際フォーラム参与・京都大学教授が議長をつとめ、日本側から六鹿茂夫日本国際フォーラム参与・静岡県立大学教授、鶴岡路人防衛研究所主任研究官、渡邊啓貴東京外国語大学教授が、欧州側からレム・コーテヴェフ欧州改革センター上席研究員、マルック・カンガスプロ／ヘルシンキ大学アレクサンテリ研究所副所長、フレデリック・グラール／カーネギー・ヨーロッパ上席研究員、トマ・ゴマール仏国際関係研究所（IFRI）所長が、それぞれ報告が行いました。本セッションで提示された主要な論点は次のとおりです。

- 日欧が共に直面している最大の課題は、米国が欧州・中東から後退したのちに生じた「力の真空」にいかに対応するか、という問題である。これは日欧にとって共に最重要の問題であるエネルギー安全保障上にも関連する。
- エネルギー安全保障の観点からいえば、共に最大のエネルギー消費国である日欧は連携して、供給国であるロシアや中東との交渉に臨むべきである。この点では、日欧は中国との協力の機会があるといえる。
- ロシアはウクライナにおける民族主義的かつ反ロシア的な動きを封じ、「凍結した紛争」を可能としたミンスク合意に満足している。
- ISIL については、これがあらゆる反対勢力が排除された独裁制の国々から生まれたものである一方、当該支配地域の住民は、既存の国際秩序へと統合されることを望んでいる。それゆえ、我々は政治的イスラム全体が脅威であると誇張することは控えるべきである。

以上

参加者一覧

【日本側】

[冒頭挨拶]

伊藤 憲一 J F I R 理事長（渡辺 繭 J F I R 常務理事代読）
小林 麻紀 外務省欧州局政策課長

[議長]

森本 敏 J F I R 理事・元防衛大臣
中西 寛 日本国際フォーラム参与・京都大学教授

[パネリスト]

細谷 雄一 慶應義塾大学教授
泉川 泰博 中央大学教授
高原 明生 J F I R 参与・東京大学教授
橋本 靖明 防衛研究所政策研究部長
六鹿 茂夫 J F I R 参与・静岡県立大学教授
鶴岡 路人 防衛研究所主任研究官
渡邊 啓貴 東京外国語大学教授

(プログラム登場順)

[オブザーバー]

石井 秀明 外務省欧州局政策課首席事務官
河村 健太 外務省欧州局政策課課長補佐

[総合司会]

矢野 卓也 J F I R 研究センター長

【欧州側】

[パネリスト]

マークス・カイク 独学術政策財団（SWP）国際安全保障部上席研究員（ドイツ）
エレナ・アタナソヴァ＝コルネリス アントワープ大学政治学部講師（ベルギー）
マリオ・エステバン 王立エルカノ財団主任研究員（スペイン）
レム・コーテヴェフ 欧州改革センター上席研究員（英国）
マルック・カンガスプロ ヘルシンキ大学アレクサンテリ研究所副所長（フィンランド）
フレデリック・グラール カーネギー・ヨーロッパ上席研究員（EU）
トマ・ゴマール 仏国際関係研究所（IFRI）所長（フランス）

(プログラム登場順)